

アマダイ通信NO. 64b

(Tile fish network letter)

08年 元旦

知人・友人各位

20世紀は戦争の世紀、21世紀は平和の世紀という夢もブッシュが簡単に壊し、国家が個人に報復する、「対テロ戦争」を超法規的に始めた結果、個人も又、国家に報復する権利を持ってしまった。核の拡散がそれに輪をかけ、世界を不安定にする。

対立の根底には貧困と格差の問題があり、その解決のためには、戦争ではなく、貧しい人々が教育を受け、高度な職業に就けるように、豊かになれるようにしなければならない。併せて、皆が豊かになることで、地球環境への負荷が高まることを防がなければならない。

◎白神山地とブルゴーニュの小さな村々・・・田舎の学校代表 田中直枝（会報より）

世界遺産・ブナの原生林で有名な白神山地。秋田県と青森県にまたがるこの山地の中心地域は、人が近づけない険しい山並みが続きます。それだからこそ、そのままの自然が残り、屋久島とともに世界自然遺産（1993年）にも登録されました。しかし、高度成長期に秋田県と青森県をつなぐ「春秋林道」の建設が着工され、白神山地を縦断することになりました。能代の鎌田幸一さんは、ブナ林がもたらす豊かな水を育むこの山地の保全運動を始めますが、地元の理解が得られず、大変な苦勞をされました。鎌田さんの思いは研究者やマスコミを動かし、多くの人々が貴重な自然を残す意義を訴え、ブナが切り倒される直前にこの林道建設は中止になりました。

今年十月、白神山地を訪ねる講座で私たちが訪れた岳岱自然観察園には、討伐予定の印のついたブナの木がありました。切られずに残って本当に良かった！この講座では秋田県側から白神山地周辺を巡ります。昨年初夏も訪れましたが、美しい景観、地元の人たちの心温まるおもてなし、海の幸・山の幸の美味しい食べ物と充実した二日間を過ごしました。しかし、目を転じると、能代駅前の商店街はシャッター街。地方都市の置かれた厳しい現状に胸が痛みます。

先日、フランス・ブルゴーニュ地方の小さな村を巡るNHKの連続番組を見ました。どの村も若者が都会に出て、残された者が細々と農業をしている小さな村々。しかし、統一された街並みと自然を取り入れた景観は美しい。その村が、地元の特性を生かした観光事業で元気を取り戻したそうです。特産の栗やトリュフでお祭りを開き、農家伝統の料理を振舞うレストランなどが紹介されていました。外部の人たちがその村の良さを見出して助言し、町おこしのキッカケを作ったそうです。我が国でも、元気になった村々の話題が多く出てくる時が来ると良いですね。<http://inaka.spo-com.ne.jp> あなたも白神へ！

◎能代から松山納豆、米も・・・相模原市に「市場の駅」、銀河連邦特産品並ぶ！

「市場の駅」は、相模原卸売商業協同組合が事業主体となり運営する、相模原総合卸売市場内に開設した一般消費者向けの小売店舗（売り場面積約330平方メートル）で、生鮮3品や乳製品・コメ、酒などが並ぶミニスーパー。

店頭では銀河連邦（能代、種子島など日本の宇宙開発拠点のある町の連合）各共和国の特産品も常時取り扱われ、能代からは、わらづと入りの松山納豆（元祖松山納豆）、白神山地由来の酵母や大豆で仕込んだ味噌、しょうゆ（白神近藤商店）、うどん（乾麺・2種類、鍋谷うどん店）のほか、あきたこまち、地酒などが「輸出」された。

あきたこまちはコメ売り場で他県産の米と覇を競い、納豆は冷蔵ケースのある鮮魚コーナーに“出張”しているほか、「銀河連邦特産品」のプレートを掲げた専用コーナーも設けられ、各共和国からの「産地直送」をアピールしている。

「市場の駅」開業で店頭販売という念願が成就。物産展も可能になったほか、市商店連合会や加盟店街もイベントなどに各共和国の産品を活用していく方針で、民間ベースの経済交流の発展に期待が寄せられている。（「北羽新報」より。お近くの方は、白神の恵みを是非、味わって下さい！）

◎銀座で知る・銀座で学ぶ～資生堂カルチャーサロン【共催】(株)資生堂

出演：「音楽・環境・ボランティア」、歌手・NPO法人「国境なき楽団」代表庄野真代
「国境なき楽団」では、訪問コンサート、世界の子供達に楽器を送る活動などに取り組んでいます。環境問題と世界中を歩いて感じた愛をテーマとした音楽活動についてお話いただきます。（度し難い音痴の🐣ですが、庄野さんの魅力に勝てず、「国境なき楽団」の素敵なメンバーと共に、一昨年はマニラ、昨秋はマレーシアへ翔んでしまいました！）

日時：3月18日(火)19:00～20:30

会場：東京銀座資生堂9階ワールドホール 会費：会員 3,150円 一般 3,675円

申込：NHK文化センター（TEL03-3745-1151、<http://www.nhk-cul.co.jp/school/aoyama/>）

◎ツアー近く、ネパールの俄か勉強開始！

この正月はヒマラヤで初日の出を拝むことにする。かつて1970年のいつだったか？学生運動で起訴され中野刑務所に拘留中に、所々黒く墨で塗り潰された読売新聞で、ネパール皇太子、後のビネンドラ国王が象に乗って結婚式！という記事を見た。殆ど新聞記事になることも少ない小国が、ヒマラヤの麓にひっそりと存在して、まだ絶対王政を敷き、車でも、馬車でもなく、象に乗って行進するんだ！と、驚いた記憶がある。

その国王が身内の王族によって王宮で惨殺されるという悲劇が数年前にあり、政情不安定になって、跡を継いだ弟のギャネンドラ国王が強権・独裁政治を行い、逆に民主化運動が活発になる。その中で王制の即時廃止と共和制を求める急進派として、毛沢東派が台頭、武装闘争を行い、二重権力状態になる。その後、武装解除した毛派も含め民主政権が組織され、王制は廃止、新憲法が作られることになり、現在に至る。

極度の貧しさと、美しくも険しいエベレストやマナスルを頂く、ヒマラヤ山脈の記憶しかないネパールに、マオイストがいる。かつて毛沢東語録を手に、文化大革命万歳！を叫んだ🐣の好奇心は限りなく刺激される。ネパールへ！俄か勉強開始！

◎K君への手紙・・・ヒマラヤに学校を建てよう！

この正月休み、ネパールへ行こうと丸の内の丸善でネパール本を探すが、1冊しかみつからない。アジア、アフリカや南アメリカなど発展途上国には一般の関心は余り向かず、

それらの国を扱った本を探すのは苦労します。綺麗で清潔、豊かな北米やヨーロッパの旅も素敵ですが、貧しくて不衛生、不便な所での生活を余儀なくされている、多数の人々も又、同じ人間です。個人ができることは高が知れていますが、封鎖した安田講堂の壁に黒々と墨書されていた「類的存在としての人間」、のスローガンが、頭を離れません。そして先ず知ること。好奇心に突き動かされ、世界へ飛び立ちます。

次に小平の図書館で検索、4冊借りたら、その中に「ヒマラヤに学校を建てよう！・建築家のボランティア奮闘記」（著者AAF、(株)彰国社発行）があり、読み始める。建築家達がネパールのヒマラヤ山岳地帯で、小・中・高校の校舎建築に挑みます。村始まって以来のプロジェクトに沸く、村人たちの期待と様々な要求。教師の確保にまでも奔走するメンバー。初めての地、初めてのボランティア活動に戸惑いながら、遂に夢を実現する素人ボランティア奮闘記です。著者のAAF（Asian Architecture Friendship）は98年竹中工務店大阪本店設計部有志中心に結成、アジアの開発途上国での学校等の建設支援が目的のボランティア団体。03年ネパールの山村にブッダ・プライマリー&セカンダリー・スクールを竣工。遠方からの子供達のための寄宿舎を作る二期計画と平行、現在、JNFEA（日本ネパール女性教育協会）との提携で、女性教員養成のための女子寮建設計画にも参画しています。（〒541-0053大阪市中央区本町4-1-13 竹中工務店大阪本店設計部内 ☎06-6252-1201 Fax06-6263-9712 HP:<http://aaf.cool.ne.jp>）

談合だ、下請け叩きだ、裏金作り、脱税だと、このところ評判の悪いゼネコンだが、竹中の本社が連絡先になっているから、会社も応援しているんだ！なかなか素敵なお話としてるじゃない？ 偶々大阪ターミナルビルの池田社長に、大阪駅ビル増築の件で、竹中工務店の難波常務をご紹介していただく。挨拶の冒頭その話を切り出すと、盛り上がり、スタッフも同席する。追って、リーダーをしている神戸の竹中大工道具館の赤尾館長から、生徒達がよく勉強し、ネパールの共通一次試験では平均合格率30%のところ、70%あり、進学校化していると連絡を受ける。

ところで、kさん、独身の弟さんがヒマラヤで遭難死、数千万円の保険金等が残ったが、自分達には必要ないので、弟さんの遺志を生かし、ネパールの子供の教育に使いたいと相談を受けましたね。政府任せではネパールの役人が猫ババする、学校を作るボランティアも沢山あるけど、作っただけで機能していないと相談受けたのですが、役立てませんでした。それであらためて電話したのですが、作ってみなうまくいってないでしょという返事でした。まだあの時の考えが残っているなら、AAFの件を前向きに考えてみませんか？

革命も恋愛も、起業も、冷静に考えることは必要ですが、どうしたら結果が出せるか考えず、粗を探すだけでは前進しません。大略良ければ、細かい所にはエイ！と目を瞑って前に進まなければならない時、熱病にうなされるように突き進む時もあります。そうしなければ事は成就しません。今回の秋田の故郷パレットプロジェクトでも、あれがない、これが駄目と言われますが、どうにかここまで来ました。無事スタートできるか？ 予断を許しませんが。あとは全力を振り絞り、粘り強く問題を一つ一つ解決して行くだけです。Kさん！一緒に、「ヒマラヤに学校を建てよう！」に突き進み、楽しみませんか？

◎六甲山をみて思う・・・魏生学（緑色地球ネットワーク大同事務所副所長）

我々訪日団は10月11日に大阪に到着し、翌日12日に六甲山地に位置する再度山と神

戸市森林植物園で自然観察研修をおこないました。

この地を訪れるのは今回2度目でしたが、森林植物園のスタッフの方から詳しい説明をうかがい、六甲山地も以前のカササギの森（中国山西省大同市の「緑の地球ネットワーク」の植樹地）と同じく、100年前はほとんど樹木が見られない荒れ山だったということを知りました。六甲山地は人工造林とその後の科学的な管理により、またそれぞれの世代の人々の労苦とたゆまぬ努力によって、現在では多種多様な樹木が生い茂る植物園へと生まれ変わり、また緑あふれる行楽地になっています。同時に、降雨の度に土が流され、土壌が悪化していましたが、これを効果的に食い止め、生態環境の保全に成功しています。

我々のプロジェクト地であるカササギの森も、5年前は同じように荒地でした。六甲山地も温帯海洋性モンスーン気候に属し、1年中温暖で湿潤な気候のため、植樹後の活着率も高いのですが、反面、カササギの森は土壌の流失が著しい黄土丘陵地帯に位置しています。そして六甲山とはその環境条件が大きく異なり、風が強い上に少雨で、年間降水量は六甲山の3分の1にも足りません。しかし私たちは自信を持って、そして確固たる決意によって、これからも中日双方の努力のもと、日々の地道な仕事によって、荒れ山を緑で覆い、100年後には、もしくはそれ以上の時間を必要とするかもしれませんが、カササギの森を必ずや「六甲山」に変えたいと思います。

◎春の黄土高原ワーキングツアーご案内

いよいよ来年は北京オリンピック。ホテルをはじめ諸物価は上がるし、交通は大混雑。ということで、来年夏の黄土高原ワーキングツアーはお休みします。

協力団体のツアーも春に集中して大同事務所の負担が大きくなるので、みなさんお楽しみホームステイは残念ながらあきらめざるをえません。どうかご理解ください。

春のツアーは霊丘自然植物園がメインです。樹木の観察には春が適しています。リョウトウナラやシラカンバなどが年々大きくなり、大同の緑化の可能性を示してくれる自然植物園をじっくり観察して、村での植樹にも汗を流しましょう。

●日程：2008年3月29日（土）～4月5日（土）8日間

●費用：159,000円（国際航空運賃、中国国内での交通費／食費／宿泊費を含む。GEN年会費〈一般＝12,000円、学生＝3,000円〉、燃油特別付加運賃、空港使用料、旅券取得費用、個人でかける旅行保険料、個人行動時の費用は含まない）※中国国際航空利用 ※関西空港発着 ※成田便利用希望の方は、航空運賃の差額2万円が別途必要です。 ※旅行社の添乗員は同行しません。

●訪問先：中国山西省大同市（北京経由）

●定員：35名 ●最少催行人数：12人

●締切：2月20日（成田便利用の方は2月8日）

●呼びかけ・内容に関する問合せ：緑の地球ネットワーク

●申込先：（株）マイチケット（代理業、tel. 06-4869-3444 fax. 06-4869-5777、旅行企画・実施エアワールド（株）国土交通大臣登録旅行業第961号日本旅行業協会会員）
※参加をお考えの方は、まずGEN事務所（<http://homepage3.nifty.com/gentree/>）迄。

◎ブルガリアから見た日本と拡大する EU

・・・団塊政策研究ネットワーク特別講演会のご案内

ブルガリア大使を3年間務め、この9月帰任した福井宏一郎氏に、最後発のEU加盟国、ヨーロッパの辺境ブルガリアから見たEUの光と陰、その可能性と、日本との関係のこれからについて話していただきます。拡大する市場を背景に強くなるばかりの通貨ユーロ、拡大する域内の経済格差、流動化する労働力と増大する移民、文化葛藤、深まるロシアとの対立とトルコの加盟問題など、話題は尽きません。

講師：前ブルガリア大使 福井宏一郎（鳥取県倉吉市出身。東大法学部卒業後日本開発銀行（現日本政策投資銀行）入行、KDDI理事を経て、ブルガリア大使に。現在日本カーボンファイナンス(株)常務取締役。）

日 時：1月22日（火）18:00 受付開始 18:30 開演 終了後：懇親会あり

場 所：学士会館 306 号室 TEL：03-3292-5931

参加費：更新会員 2000 円 一般 3000 円（軽食付き）

連絡、申込先：団塊政策研究ネットワーク（162-0842 新宿区市谷砂土原町 3-4-1 616）

Fax03-5228-1715 E-メール w-1942@ph.highway.ne.jp

◎動き始めたアフリカと日本の対応・・・ケニア駐在3年間の体験を踏まえて

東大三鷹クラブ第76回定例懇談会のご案内

講師の宮村 智さん（前駐ケニア大使、現・損保ジャパン総合研究所理事長、S40年入寮）とは三鷹寮だけでなく昭和40年入学L I II 15Dのクラスでも一緒である。

しかし、クラスで顔をあわせた記憶はほとんどなく（私が出席していなかったせいかもしれないが）、これからスキーに行くのだと聞いてそれらしい格好でクラスにいたとか、今日はダンス部の退会届を出すのだとか、マージャンも滅法強いかさまを防ぐため積むとき以外は台上には片手のみでとか課外の事ばかりしか覚えていない。それにもかかわらず成績は抜群、駒場では1番か2番。いったいどこで勉強していたのか不思議である。

卒業後は大蔵省で活躍。国際金融局を中心に海外勤務も多く、世銀理事等を歴任後NTTに移り、その後ケニア大使に就任した。人柄もすばらしい。激しない、偉ぶらない、多くの人が慕うのは当然であろう。ケニアでも垣間見た。彼がいる間にとにかく一度は行こうと考えていたところ、干場君からイオン環境財団主催のケニア植樹ツアーの案内があり三鷹寮4人が参加した。ナイロビ到着の日に公邸で宮村ご夫妻より三菱商事の植樹チームと一緒に心温まる歓待を受けた。公邸では最初の門でチェックを受け、更に玄関まで2回チェックを受けるなど厳重な警戒でやはりアフリカと感じた。植樹の前夜、ナイロビから150km強離れたナクル湖のロッジで、宮村ご夫妻も参加されて、‘もったいない’で有名なノーベル平和賞受賞のマータイさんの講演会があった。しかしマータイさんは大幅遅刻。主催者のイオンは事もあろうに、突然宮村大使につなぎ役としてケニアの現状について話してほしいと要望。宮村大使は嫌な顔をひとつもせずに、ケニアの政治情勢、経済状態、魅力等小一時間話した。ここで又、彼の人物の大きさを痛感した。

事前に宮村さんから、ケニアは12ヶ月のうち10ヶ月は夏の軽井沢、後の2ヶ月は少し寒いと教えられすごく意外だった。やはり百聞は一見に如かず、まさにさわやか、すばらしいところだった。人類はやはりこういうところで誕生したのかと単純に納得した。

今回の講演会によって、ケニアひいてはアフリカについてあれ！と新しい発見をする人

もいるでしょうし、ケニヤの魅力に引かれ是非とも行こうと思う人もいるでしょう。

宮村さんはケニヤ以外にも近隣の国の大使も兼ねていたので、その辺りの政治情勢、経済情勢もお話いただけると個人的には有難いと願っている。(文責：S 40 入寮・大川澄人)

日時：平成 20 年 2 月 7 日 (木) 18 時 30 分～21 時

場所：学士会館本館 203 号室 (千代田区神田錦町 3-28 TEL 03-3292-5931)

会費：5000 円 (会場費、夕食代・ビール代、通信費など込み) 終了後二次会あり

申込先：平賀・干場 Fax 03-5689-8192 電話 03-5689-8182

(有)ティエフネットワーク Email: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

◎三鷹クラブ、グローバルネットワークの夢

1 2 月 8 日 (土) 11 時から三鷹寮で毎年恒例の「三鷹市民と東大三鷹国際学生宿舎生の交流の集い」が開かれる。今年が 14 回目。駒場の先生の講演会と懇親パーティが終って寮生慰労?のため先ずカラオケへ。今回は留学生を主に男 8 人、女 7 人の大パーティ。2 時間、英、中、スペイン語の歌を聴き、も東大の校歌だと言って、「おいら岬の灯台守は・・・」と、「歓びも悲しみも幾年月」を“熱唱”。

近くのファミレス華屋与兵衛で夕食をご馳走。鰻、カツ、すき焼き、鍋焼き等思い思いに頼み、呑みっぷりは今一だが、食いつぷりは良い。学生時代からこうして国際交流し、切磋琢磨、ネットワークを広げ、いずれ日本と世界のために活躍するのは有意義だ。ささやかだが、昔の寮のコンパよろしく、交流の場を作ってやれるのは嬉しい。

夕食まで残ったのは以下の若者だ。呉君と王君は「俺、チャイ語忘れちゃったよ」と冗談を言いながら、日本語の歌を上手に歌う。三鷹寮から巣立った留学生も、上はそろそろ 40 歳、働き盛りで、それぞれの国で活躍しているだろう。グローバルなネットワークを作れぬものだろうか?

鈴木悠平：文科 I 類 1 年、神戸高校、森田泰貴：文学部思想文化学科美学藝術学専修 2 年、県立下関西高、キュー・アンドルー (Andrew QIU)：シドニー大学・工学部・2 年、マリアダス・マヘンドラ (MARIADASSOU MAHENDRA)：フランス・数学研究生、ウー・ハオ (呉昊)：教養学部・国際関係論・中国天津市・2001-愛知・名古屋; 2006-東大、ミシェル・パク (michelle Park)：シドニー大学・専攻-国際ビジネス、シュー・ヤン (shu YAN)：Grenoble University (グルノーブル大学)、王 悠介：19 才・中国湖南省から 1998.8 月京都へ、洛南高校を経て東大へ

◎留学生支援基金にカンパを！

今年も東大留学生支援基金のパンフレットを同封します。主に厳しい経済状態で勉学に励む開発途上国出身の留学生のために、ご協力をお願いします。

◎大きな初夢を正夢に！

大きな初夢をぶち上げましたが、読者諸兄のお力添えを得、正夢に！と思います。今年の  年賀の当選は下 2 桁 08 番です。年明け、故郷の特産品を送ります。再見！